



古文の基礎知識

1 歴史的仮名遣い①

問 次の言葉を現代仮名遣いに直して、全て平仮名で書きなさい。

- (1) きのみ
- (2) おほやけ
- (3) にぎはひ
- (4) くれなる
- (5) 故
- (6) かをり
- (7) 過客
- (8) いづこ
- (9) もみぢ
- (10) さへづり
- (11) をのこ
- (12) 常ならむ

ポイント ● 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」を直す

① 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」に直す。語頭や助詞は直さない。

例 にほひ↓におい はるはあけぼの↓はるはあけぼの

② 「ぬ・糸・を」↓「い・え・お」に直す。助詞「を」は直さない。

例 くらぬ↓くらぬ(位) こ糸↓こ糸 をり↓おり(折)

③ 「ち・づ」↓「じ・ず」、「くわ・ぐわ」↓「か・が」に直す。

例 わらぢ↓わらぢ えいぐわ↓えいが(栄華)

④ 「む」↓「ん」に直す場合がある。

2 歴史的仮名遣い②

問 次の言葉を現代仮名遣いに直して、全て平仮名で書きなさい。

- (1) 相撲
- (2) しょうとめ
- (3) 料理
- (4) 冠
- (5) 優なり
- (6) 近江
- (7) 教法
- (8) 扇
- (9) たふとし
- (10) うつくしう
- (11) 蝶
- (12) 万葉集

ポイント ● 「あう」「ぶ」「い」「う」「ぶ」「えう」「ぶ」を直す

① 「あう au」↓「おう o」「い う u」↓「ゆう yu」「えう eu」↓「よう yo」に直す。

例 まうす mau ↓もうす mo (申す)

例 えうなし eu ↓ようなし yo (要なし)

② 「ア段の音+ふ」「イ段の音+ふ」「エ段の音+ふ」の形に注意する。

例 かふち↓かうち kau ↓こうち ko (河内)

* 「ふ」↓「う」「あう au」↓「おう o」に直す。

3 古文特有の語

① 次の言葉の意味として最も適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) げに
 ア さらに イ すぐに ウ きつと エ 本当に
 (2) かく
 ア あれ イ ここで ウ このように エ そのように

② 次の——線部の意味として最も適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。〔 〕
 ア ときどき イ やつと ウ 急に エ だんだんと
 (2) この衣着つる人「かぐや姫」は、物思ひなくなりければ、車に乗りて、百人ばかり天人具して、(月に)のぼりぬ。〔 〕
 ア 残して イ 連れて ウ 話して エ 使わして

ポイント ● 古文には、現代語ではほとんど使われない語がある

いととても。 いとどいっそう。

さる〔然る〕〓そのような。 いかで〓どうして・どうにかして。

おはす〓いらっしやる。 仰す〓おっしやる。

覚ゆ〓思われる。 ゆかし〓見たい。聞きたい。知りたい。

憂し〓つらい。 いみじ〓はなはだしい。

らうたし〓かわいい。 さらなり〓言うまでもない。

4 現代語と異なる意味をもつ語

① 次の言葉の意味として最も適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) おどろく
 ア はつと気づく イ びつくりする
 ウ 感動する エ 喜ぶ
 (2) すさまじ
 ア 敵かだ イ 乱れた ウ 恐ろしい エ 興ざめだ

② 次の——線部の意味として最も適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) (水車が回らないので)とかくなほしけれども、終にまはらで、いたづらに立てりけり。〔 〕
 ア いそいで イ むやみに ウ むだに エ 簡単に
 (2) 立てこめたる所の戸、すなはちただあきにあきぬ。〔 〕
 ア ゆつくりと イ すぐに
 ウ ついに エ 次第に

ポイント ● 古文には、現代語とは異なる意味をもつ語も多い

けしき〔気色〕〓様子・顔色。 年ごろ〓長年の間。

なほ〓やはり。 やがて〓すぐに・そのまま。

ののしる〓大声で騒ぐ。 居る〓座る。

失す〓消える・死ぬ。 をかし〓趣がある。

かなし〓いとしい。 あはれなり〓しみじみとした趣がある。